

三重県護国神社奉賛会報

第八十九号



明治天皇御製(明治三十七年)

おぼろらにそびえて見ゆるたかねにも
登ればのぼる道はありけり

万灯みたたま祭

今年も「万灯みたたま祭」が七月二十三日より二十五日迄の三日間開催されます。

ご遺族崇敬者の方々より心のこもった献灯が、毎年境内所狭しと掲げられます。

万灯みたたま祭は、かつて国難に際し、家族と郷土と国家を護らんとし、御盾となり命を捧げつくされた護国の御英霊に万の灯をもつてお慰めし、平和を感謝し幸福を祈念するお祭りです。

当会会員よりも献灯頂いておりますが、一灯でも多くの献灯をさせていただきます。なお、期間中お繰り合わせの上、是非ご参拝頂きますようご案内申し上げます。

◇一般献灯 一灯 二千円
鳥居脇に献灯します



◇特別献灯 一灯 五千元
外拝殿に献灯します



会費納入のお願い

『平成二十六年度』（平成二十六年九月一日～翌年八月三十一日迄）は来る八月三十一日をもって終了致しますので、会費未納の方は早めに納入頂きますようお願い申し上げます。

尚、納入の際は奉賛会専用の振込用紙をご利用下さい。
※送金手数料は奉賛会で負担いたします。

奉賛会御入会のお願い

三重県護国神社奉賛会では、次のとおり入会をお願いしています。

年度会費

正会員 二千元

特別会員 一万円(個人、企業、団体を含む)

・入会者には「会員証」をお渡しします。

・年三回発行する奉賛会報をお送り致します。

・春秋例祭と万灯みたたま祭にはご案内し、参列証をお送りします。

・総会のご案内を差し上げます。

入会ご希望の方は直接神社へお越し頂くか、奉賛会事務局までお知らせ下さい。

【お問合わせ先】

三重県津市広明町三八七

三重県護国神社内 奉賛会事務局

TEL 〇五九―二二六―二五五九

—散華の心と鎮魂の誠—

本庄 繁 命



兵庫県出身
陸軍士官学校第九期
明治九年五月十日生
昭和二十年十一月二十日歿
六十九歳
陸軍大将

遺 書

多年軍ノ要職ニ奉仕致シナカラ御国ヲシテ遂ニ今日ノ如キ破局ニ近キ未曾有ノ悲境ヲ見ルニ立到ラシメタル飯令退役トハ云ヘ何共恐懼ノ至リニ耐ヘス罪万死ニ値ス
満洲事変ハ排日ノ極鉄道爆破ニ端ヲ發シ関東軍トシテ自衛上止ムヲ得サルニ出テタルモノニシテ何等政府及ヒ最高軍部ノ指示ヲ受ケタルモノニアラス全ク当時ノ関東軍司令官タル予一個ノ責任ナリトス
爰ニ責ヲ負ヒ世ヲ辞スルニ当タリ謹テ聖寿ノ万歳、国体ノ護持、御国ノ復興ヲ衷心ヨリ念願シ奉ル

昭和二十年九月

本庄 繁 花押

【解説】

本庄大将は、明治九年、兵庫県に生まれ、明治三十年、第九期生として陸軍士官学校を卒業、軍人生活の第一歩を踏み出した。明治三十五年、陸軍大学校に入校したが在学中に日露戦争となり中隊長として出征、戦傷を受ける。

陸軍大学校卒業後、明治四十一年から大正二年まで、参謀本部付、上海及び北京駐在。大正二年、参謀本部支那班長。大正七年、参謀本部支那課長。大正八年、歩兵第一聯隊長としてシベリアへ出征。大正十年、参謀本部付、張作霖軍事顧問。大正十四年、支那公使館付武官。と、一貫して大陸と関わりの深い戦域で勤務した。

昭和六年八月、関東軍司令官として着任した当時の満洲は、中国革命の余波を受けて排日の気風が高まり、万宝山事件、中村大尉事件等風雲ただならないものがあつた。

着任直後の九月八日、奉天郊外の柳条湖における鉄道爆破から始まつ

た満洲事変における陸軍の神速果敢な行動は世界の注目を集めたが、日本はこれから昭和二十年の終戦に至るまで大陸で戦火を交えることとなつていく。

昭和八年、侍従武官長となり、宮中にお仕えしている時に起こつたのが二・二六事件である。この陸軍の反乱事件において侍従武官長の立場は非常に苦しいものであつた。

このように本庄大将は、昭和史における国内・外の二つの重大事件に深い関わりを持った。

それ故にか、昭和十一年以降すでに退役の身であり、傷兵保護院総裁という立場であつたにもかかわらず、本庄大将は、敗戦の責めを「関東軍司令官タル予一個ノ責任ナリトス」との遺書を認め、昭和二十年十一月二十日、靖國神社臨時大招魂祭の日

に、陛下が御親拝されるその同時刻、赤坂にある青山の補導会理事長室において靖國神社の方角に正対し、割腹自殺された。

「散華の心と鎮魂の誠より転載」

奉 賛 会 報 告

春季慰霊大祭

去る四月二十一日(火)・二十二日(水)の両日にわたり、春季慰霊大祭が斎行された。

二日間天候にも恵まれ、県下より御遺族崇敬者、各界代表の御参列のもと厳粛且つ盛大に執り行われた。

乙部会長には、両日とも参列され奉賛会員を代表し玉串を奉りて拝礼された。

又、第二日目の祭典の締めくくりには会長の発声により万歳三唱が行われ、参列者全員声高らかに「万歳」を奉唱した。



玉串を捧げる乙部会長